



中央会事業より

秋田県官公需受注対策協議会との連名により全7項目を要望 ～秋田県へ官公需に関する要望書を提出～

11月28日(月)、秋田県官公需受注対策協議会の加藤憲成会長、大門一平副会長ならびに本会の伊藤邦夫専務理事が秋田県庁を訪れ、前佛和秀建設部長、天利和紀総務部長、金田早苗出納局長、岩澤道隆産業労働部長に対し官公需に関する要望書を手交し、下記の7項目について要望しました。

秋田県への要望は、本会理事会や地区別組合代表者懇談会、官公需受注対策懇談会での討議を経て、本会と秋田県官公需受注対策協議会との連名により毎年行っているもので、要望にあたり本会伊藤専務理事より要望内容の骨子を説明した上で、「官公需の地元発注について県には十分配慮頂いており、大変感謝している。今後は市町村への働きかけを強化して頂きたく、行政懇談会等の政策会議の場を通じ、首長に趣旨を伝えて頂きたい。」と要望しました。

これに対し、秋田県からは、「建設工事の端境期解消のため、発注時期の平準化に取り組んでいる。今後も県内の地域バランス等を考慮し、早期発注及び発注時期の平準化に努めていきたい。」や、「秋田県中小企業振興条例の施行後2年が経過し、県内企業への優先発注については議会でも質疑が出されており、十分意識して行っている。今後もあきた未来総合戦略の趣旨に則り、官公需施策の一層の普及・浸透に努めていきたい。」等といった前向きな回答を頂きました。



[要望の様子]



[前佛部長(右)へ要望]



[天利部長(右)へ要望]



[金田局長(右)へ要望]



[岩澤部長(右)へ要望]

－秋田県への要望項目－

- 1 県内高速道路等ネットワークの早期完成並びに秋田港のアクセス道路の整備促進について
- 2 地元中小企業・小規模事業者への優先発注と官公需適格組合の活用について
- 3 公共工事における発注時期の平準化及び適正価格による発注等について
- 4 運送業務に関する官公需の発注について
- 5 物品購入、印刷物等の最低制限価格制度の導入拡大について
- 6 県道に設置されている道路街路灯のLED化について
- 7 県管理国道等における駐車スペースの整備について

「規格外いちご」の加工品としての活路を見出す ～新設組合フォローアップ事業を開催(企業組合美郷ストロベリー)～

平成25年4月に、いちごの生産・販売ならびにいちごジャム等の委託加工品の販売を目的に設立した企業組合美郷ストロベリー(金子嘉伸理事長)では、組合設立後3年が経過し、安定した黒字経営への転換が課題となっています。

そこで、生産ロスとなっている「規格外いちご」の加工品としての活路を見出すことで、美郷ストロベリーの知名度ならびに売上の向上を目的に、今年度本会の「新設組合フォローアップ事業」を実施しました。

11月24日(木)、美郷町の「組合事務所」において最終回となる第3回事業を開催し、金子理事長をはじめ組合関係者等4名が出席しました。

講師を務めた株式会社結アソシエイト(東京都)の松田恭子社長からは、競合(Competitor)、顧客(Customer)、自社(Company)の3つの観点からの環境分析(3C分析)による販売戦略の立案や、商品開発、商品プロモーション(情報発信)の手法についてアドバイスがあり、松田社長からは、「規格外いちごそのものの品質が良くなければ、加工する側も消費者も受け入れてくれない。それは、『美味しくて当たり前』であるためである。このため、現在栽培しているいちごについては、生食用と冷凍用とで糖度を

変え、差別化して栽培することが望ましい。」と、農産物の特性や販売戦略を踏まえた栽培手法についても具体的なアドバイスを受けました。

当組合では、本会事業の実施により、今までいちごの栽培に傾注していた状況から農業分野における経営手法やいちごの活用方法、販路開拓に向けた営業方法などを具体的に学び、一農家から脱皮し事業体である企業組合として着実に共同事業を実施していくための足がかりを得ることができました。

今後は、「道の駅雁の里せんなん」や当組合直売所、スーパー等において当組合のいちごを販売していく予定です。



[事業の様子]

支援団体活動レポート

創立30周年記念式典を盛大に開催(秋田県アパレル産業振興協議会)

11月26日(土)、秋田市の「秋田キャッスルホテル」において、秋田県アパレル産業振興協議会(佐賀善美会長)の創立30周年記念式典が開催され、来賓や会員等81名出席の下、創立30周年の節目を盛大に祝いました。

当日は、記念式典に先立ち、株式会社ユナイテッドアローズの竹田光広社長を講師に招き、「100年企業を目指した理念経営」をテーマに記念講演が開催され、近年の国内におけるアパレル産業の現状と、世界情勢も絡み合わせた中での当業界の今後の展望について力強い講話があり、講演後のパネルディスカッションにおいても、当業界を取り巻く環境はどのように変わりどのように対応していくのかや、今後目指すべき未来の姿などについて各パネラーより貴重な提言がなされ、出席者は熱心に聴講していました。

その後、記念式典が開催され、佐賀会長より式辞が述べられた後、業界の発展に長年尽力された功績を称え、昨年4月にご逝去された高橋練三当協議会元会長をはじめ、佐々木繁治当協議会名誉会長や当協議会顧問の関口正之、淡路稜両氏に対し、佐賀会長より感謝状がそれぞれ

授与されました。また、来賓を代表して千葉繁東北6県縫製団体連合会会長より、会員のさらなる発展を祈念する旨の祝辞が述べられ、記念式典は滞りなく終了しました。

なお、記念式典終了後には祝賀パーティーが盛大に開催され、会員各社の製品によるファッションショーのオープニングに続き、中島英史秋田県副知事による祝辞が述べられた後、本会藤澤正義会長による乾杯のご発声で開宴し、終始和やかな雰囲気の中、随所で歓談の輪が見られ、最後は、鈴木健志当協議会幹事長による創立30周年と今後の発展を祈念した挨拶がなされ、盛会裡に閉宴しました。



[記念式典の様子]